

第2回

国際リサイクル会議・金沢 '08 for THE CAR



期日:2008年2月8日(金)

会場:石川県立音楽堂交流ホール



RUM Alliance

内閣府認定NPO法人:全国自動車リサイクル事業者連盟
URL <http://www.rum-alliance.com>

開催のご挨拶

1908年アメリカのヘンリー・フォード氏が世界の大衆車として最初のTモデルの製造を開始し、今年で100年を迎えます。この間にモータリゼーションは世界の隅々まで浸透し、ここ数年で世界の4輪車保有台数は10億台を超えるものと見られております。

大量生産と共に発生する大量の使用済自動車の適正処理と資源としてのリサイクルは、発展途上国も含め世界にとって益々重要な課題となってきました。私たち全国自動車リサイクル事業者連盟(内閣府認証NPO法人RUMアライアンス)は、使用済自動車の適正解体と再資源化を通じた持続可能な社会の構築をテーマに、この度、国連工業開発機関(UNIDO)東京投資・技術移転促進事務所の協力のもと、第2回国際リサイクル会議を石川県金沢市で開催致しますので御案内申し上げます。

本会議では発展途上国に対する、日本で培われた自動車リサイクル技術の移転を中心に以下の議題を予定しております。本会議を通して使用済自動車の再資源化に関わる国際的ネットワーク作りが、「競争から協調へ」の精神の基で構築できることを目指しております。

第1部 国際自動車リサイクルシステムの構築に向けて

第2部 自動車リサイクルに関わるCDM構想および、国際リサイクル教育センターの紹介

第3部 パネルディスカッション

テーマ:「発展途上国における自動車リサイクルビジネスの未来」

第1部と第2部では、RUMアライアンス作成のDVDを使用した基調報告を行います。

第3部のパネルディスカッションでは、参加国大使館代表者数名と日本を代表するスペシャリストによる討議を予定しております。

会議には経済産業省、外務省からの代表者ならびに森元首相はじめ石川県知事等のご臨席も予定されており、今後の世界規模での自動車リサイクルの取り組みについて大きな一歩を踏み出せますことを願っております。

御多忙の事と存じますが、万障お繰り合わせの上、御出席賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

2008年1月吉日

RUMアライアンス代表理事
近藤典彦

第2回 国際リサイクル会議・金沢'08 for THE CAR

1、世界は潮目

世界は2007～08年に掛けて、大きく変わろうとしています。2007年のノーベル平和賞は、ドキュメント映画「不都合な真実」で地球環境の現状を訴えた米国元副大統領アル・ゴア氏が受賞しました。ゴア氏の陰に隠れたようですが、世界の2,000名を越える気候学者で構成される国連機関IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change/気候変動に関する政府間パネル)も同時に受賞しました。ノーベル平和賞が地球温暖化に警鐘を鳴らし続けてきた個人と団体に授与されたということは、地球環境問題が人類の平和と安全を脅かす共通の敵であることの証左です。2008～2012年の5年間は京都議定書が発効する期間です。京都議定書には米国の離脱や中国、インドなど発展途上の大国が義務を負わないという不完全性があるものの、CO2削減という世界共通の問題を克服するための最も現実的な規範です。1990年を基準に、世界で5%削減、EU8%、日本6%など数字は小さいが、これを達成しなければ次の2013年からの約束は絵に描いた餅です。数字の大小よりも、産業革命以来200数十年間一貫してCO2を増やし続けてきた欧米の右肩上がりの経済トレンドが始めて横ばいから右下がりへ転ずるといふ世界の大きな潮目です。

2、地下資源から地上資源へ

乗用車は平均重量約1.1tで、約865kgの鉄・鉄合金、約9kgの銅、約68kgのアルミ、約3gの白金族金属、及び約90kgのプラスチック類(約44kgがPP)、約33kgのゴム、約28kgのガラスのなどの素材から成ります。金、銀、銅などの鉱物資源をこれまでのように地下から掘り続けるならばそれぞれ20～50年で枯渇すると予測されています。また、1tの金鉱石から金は0.3～1gしか取れませんが、携帯電話1t(約1万個)からは280gもの金が回収されます。私たちはこれ以上環境破壊を伴う地下資源への依存を続けることはできません。これからは使用済製品を適切に処理し、再生可能な地上資源の回収時代です。自動車リサイクル業には、こうした新しい静脈産業の担い手としての社会的責任があります。自動車産業において、メーカーは部品の製造、組立てを行う動脈産業ならば、リサイクル業は、使用済自動車の適正処理、部品のリユース、資源のリサイクルを行う静脈産業といえます。私たちの身体が動脈と静脈の循環によって保たれているように、地球環境の持続可能性は動脈産業と静脈産業の連環によって達成されます。

3、UNIDOと連動した国際会議開催

自動車単体の環境影響は年々改善されています。しかし、現在8億数千万台、やがて10億台になろうとする世界の車の行き着く先は様々です。先進国で適正リサイクルが為されれば良いという問題ではありません。リサイクル技術や工場がない途上国こそ環境や資源の観点から重要です。第1回会議ではUNEP(国連環境計画)の協力を得ましたが、第2回はUNIDO(国連工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所)の協力を得て、発展途上国との協力関係を目指します。特に島嶼国における使用済み自動車の処理、再資源化問題は緊急を要します。京都議定書には先進国と発展途上国の共同事業を支援するCDM(Clean Development Mechanism/クリーン開発メカニズム)という仕組みがあります。市場原理を取り入れて国連の認証によって進められる京都議定書を使った最も応用力のあるプロジェクトです。具体的には、先進国の資金と技術を導入してコストの安い途上国で削減したCO2の排出枠を、先進国が購入するシステムです。これによって、途上国には投資と購入資金さらに技術移転が行われ、日本などCO2の削減が難しい国は削減量にカウントすることができます。私たちRUMアライアンスはこのCDMを使った使用済自動車の処理システムの構築を目指しています。

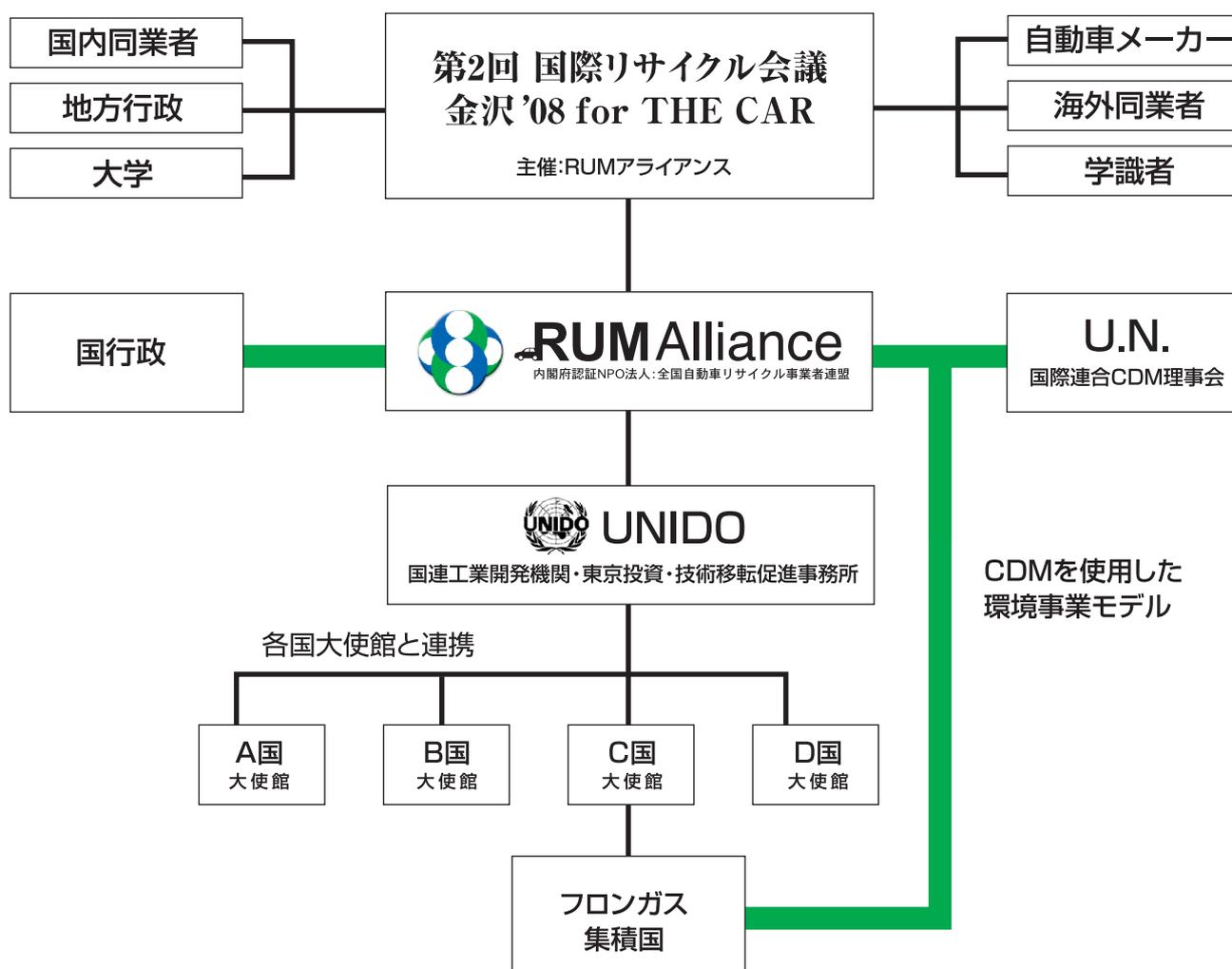
以上

第2回 国際リサイクル会議 金沢 '08 for THE CAR

2008年2月8日(金)/会場:石川県立音楽堂交流ホール/予定参加人数:270名

自動車リサイクルにおける海外技術移転の重要性

RUMアライアンスは、自動車リサイクル事業がもたらす、
地上資源の再利用化、地球環境整備、技術者の育成、
相互協力可能なビジネスシステム作りから生まれる経済効果を目指し、
第2回ELV国際会議を金沢市で開催することを計画しています。

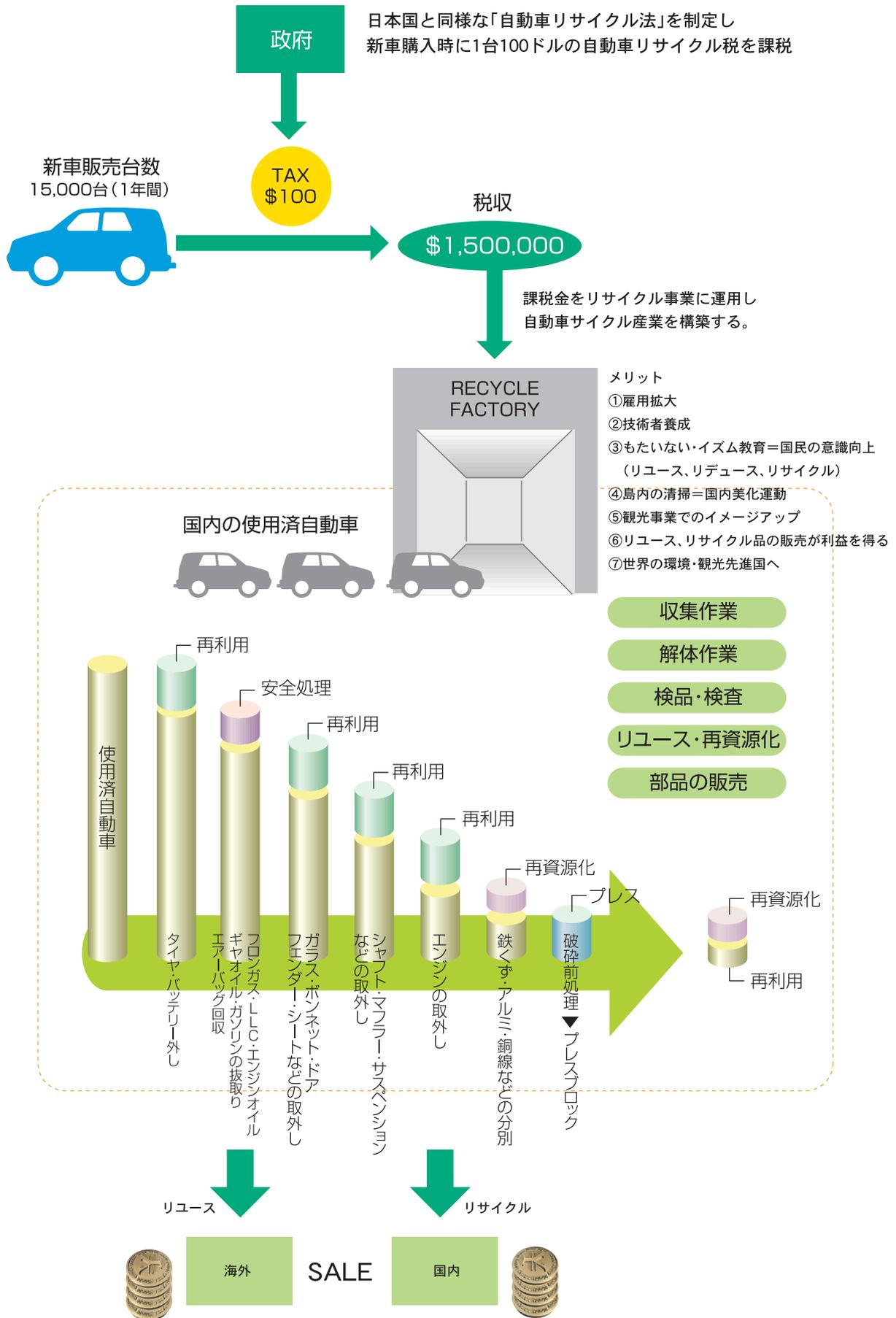


主催/RUMアライアンス(内閣府認証NPO法人)

特別協力/国際連合工業開発機関(UNIDO)東京投資・技術移転促進事務所

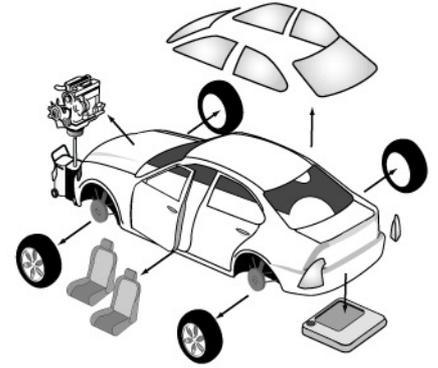
後援/国際連合環境計画(UNEP)、経済産業省、石川県、金沢市、北國新聞社、テレビ金沢、北陸放送、
(予定) NPO法人日本静脈産業研究センター、フューチャー500、石川県内大学 (他、行政・メディア・企業など)

国際自動車リサイクルシステムプロジェクト



IREC/International Recycling Education Center

IRECの使命



【意義】

地球温暖化が進行し、生態系異変や自然災害の規模拡大に見られるように、地球環境は急速に悪化している。原因は物質偏重の文明にあり、この困難な状況を克服する

ために、また地球と人類との関係で持続可能な発展を構築するためにも、産業社会は動脈産業と静脈産業が連環する循環型産業に転換しなければならない。

IRECは、この目的を有する人達が共に学ぶ場となり、静脈産業の発展に貢献します。

【目的】

- 1) 自動車リサイクル教育を通して、「人間力」と「技能」修得を目指し、産官学結束のもとに優秀な人材を育成する。
- 2) 再資源化技術開発および部品再生産を通して、自動車リサイクル業界の社会的地位向上を実現する。
- 3) 資源逼迫の国際情勢において優秀な自動車リサイクル技能者育成は、時代の要請であり、国家資格及び国際標準制定に発展させる。
- 4) 競争による無駄や摩擦を排し、イノベーションを活発化し、協調することでより大きな利益を享受する。
- 5) 動脈産業と静脈産業が高度なレベルで連環し、自然と調和した産業社会樹立を日本発信の世界モデルとして構築する。
- 6) 社員の成長は企業存続・発展の礎であり、本教育がその役割を果たす起因となる。

SYSTEM PLAN

